

ぴか! 創

令和5年度 図工・美術部報
発行：3月11日(月)

三河の造形教育

岡崎市現職研修委員会図工・美術部
部長 長坂 博子

2月中旬、第2回三教研造形部会がありました。第2回と言っても本年度最後の会合です。そこでは、例年、三河各市町の1年間の実践報告をしていただき、互いの研修の場ともしています。16市町の常任員の先生方からは、研修会や展覧会等を経た成果と課題が報告されました。改めて感じたことは、「三河の造形教育は素晴らしい」ということです。

16市町のうち、実に15市町で展覧会が毎年実施されています。展示作品は、立体作品、平面作品、その両方であったりします。展示場所は、美術館や公民館等の屋内もあれば、公園等の野外であったりもします。中には、秋に公園で野外展をし、冬の2月に平面作品展を美術館等と、年2回の展覧会を実施している市町もあります。展覧会の回数も豊橋市の第66回造形パラダイス、豊川市の第67回子ども美術展、西尾市の第68回絵をかく会特選作品展等、歴史を感じる市町が多いです。

先日、豊田市の図工・美術題材アイデア展と幸田町の児童・生徒作品展を見に行ってきました。私は、これまでも豊橋市、刈谷市、西尾市、豊川市等々、三河各地の展覧会を機会があれば見に行っています。どの展覧会にも子供たちのエネルギーがあふれており、先生方の教材の工夫等に感心させられ、いい学びの場となっています。

本年度、造形おかざきっ子展は第60回記念展として実施させていただきました。岡崎市が、他の市町と違う唯一のところは、全こども園・小中学生の作品が展示されていることです。選抜された作品ではなく、優劣もつけない岡崎っ子みんなの作品展です。このことが実現できているのは、岡崎の先生方のおかげです。心から感謝しております。他市町を参考にしながら、いい展覧会のあり方を今後も模索していきたいと考えています。

今年度の指導員訪問を振り返って…

北中学校 堀口 宏章

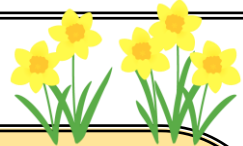
子供の関心・意欲を高める上で大切なことは、題材の設定である。魅力ある題材と出会った子供は「早くやってみたい」「もっと知りたい」と目を輝かせる。指導員訪問では、そんな子供の生き生きとした姿を何度も見せていただいた。こうした授業は、「活動内容が楽しく、できそう、やってみたいという思いがもてる」「試行錯誤しながら何度でもやり直しができる」「自分で材料や用具を選び多様な表現ができる」という点が共通していた。初めての素材や用具を活用した題材は子供にとって興味深い。また新聞紙や段ボールを使って自分を飾り付けたり建物をつくったりできる活動は内容が楽しく全身を使ってさまざまな工夫ができる。さらに制作過程で何度でもつくりかえることができる可塑性の粘土や、やり直しがきく豊富な材料があれば、子供は失敗を恐れず試行錯誤しながら意欲的に自己の表現を追究していくことができる。来年度も魅力ある題材づくりに取り組んでいただき図工・美術科の授業に意欲的に取り組む子供を育てていただきたい。

六ツ美北中学校 中根 勅子

昨年度に比べ、小学校低学年では「造形遊び」の実践が多く見られた。身近な材料を使って形を写しとるスタンプ遊びや、ペットボトルにつくった色水の並べ方を工夫する活動を通し、子供は「きれい」や「いい感じ」を見つけていた。中学校では、自分の表したい主題を基にして「自画像」や「空想画」に向き合っていく平面の実践が複数あった。

小中ともに、中間鑑賞会が定着し、新しい視点を獲得して自分の考えを再構築するよい機会となっている。しかし、自分の作品に意味や価値を見出せないまま行う鑑賞会は、学びの少ない形式的な時間となる。教師が「なぜその色なの」とか、変化に気付いて「形をかえたのはなぜ」と声をかけたり、停滞している子供に寄り添ったりすることで、造形的な視点を基にして自分の作品に意味や価値をもつことにつながる。また、対話する際に色や形、イメージなどの視点を提示すると、子供は造形的な見方考え方を働かせて関わり合うことができる。他者と関わる中で自分の見方や感じ方を広げ、表現へと生かしていくことができる中間鑑賞会でありたい。

造形おかざきっ子展 60 回記念誌



造形おかざきっ子展の第 60 回展を記念して、51 回展から 60 回展をまとめた記念誌を作成しています。

作品の写真を提供してくださった主任の先生方のご協力もあり、多くの写真を掲載した記念誌の作成に取り組むことができています。Web 開催の 57・58 回展では、各学校での作品展示の様子や、Web で公開した作品写真を掲載する予定です。

また、50 回展から 60 回展の中で、会場がおかざき世界子ども美術博物館から、中央総合公園へ変わりました。おかざきっ子展の変化も感じることができる 1 冊になるよう制作しています。

ぜひ、今後の教材研究としての参考にもしていただきたいと思います。



第 61 回造形おかざきっ子展へ向けて



「第 61 回 造形おかざきっ子展」も子供たちにとっては、授業で一生懸命つくった作品を多くの人に見てもらったり、市内の様々な作品を鑑賞したりする場となり、先生方にとっては、教材研究の成果や展示等における研修の場となるよう、先生方には引き続きお力添えをお借りいただければと思います。

さて、第 61 回展は、テーマから連想できるイメージを明瞭にしたい、教材研究に取り組む先生方や子供が同じ方向を向きながら色や形、素材や技法を工夫し、これまで以上にテーマに沿った作品づくりに取り組んでいただきたいと思います。

そこで、第 61 回展のキーワードを『うごく』としました。60 回展を終え、『うごく』をテーマに新しい『うごき』を感じさせたい。動く仕掛け、走るや跳ぶといった『うごき』を感じる形、過去から現在といった時の流れ、心が『うごく』瞬間、動植物の生き生きとした姿…。授業者は様々な『うごく』を見つめ、題材研究を進め、子供たちは様々な『うごく』を楽しみ、自分の『うごく』を表現する。先生方の発想から生まれる題材と子供たちの表現が融合したすばらしい作品が会場に会する日を楽しみにしております。